

## 精神保健係

### 1 精神保健医療福祉

当所では、精神保健福祉センター・市町・医療機関・社会福祉関係機関・社会復帰施設等を含めた地域社会との緊密な連絡協調のもとに、精神障害者の早期治療の促進及び精神障害者の社会復帰及び自立と社会参加の促進を図るとともに、地域住民の精神的健康の保持向上を図るための諸活動を行っている。

#### (1) 管内精神科病院の入院者数（精神科病院月報より。各年3月末現在）（単位 人）

年度	管内病床数	措置入院者数	医療保護入院者数	任意入院者数	その他入院者数	入院者数
24	1,311	10	647	489	10	1,156
25	1,311	7	619	503	15	1,144
26	1,311	7	631	515	15	1,168

\*その他は、応急入院者、他県の措置入院者、一般入院者（法以外者）鑑定留置等による入院者

#### (2) 精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院）

精神障害者保健福祉手帳は、一定の精神障害の状態にあることを証する手段となることにより、交付を受けた者に対し、各方面の協力により各種の支援策が講じられることを促進し、精神障害者の社会復帰の促進と自立、社会参加の促進を図ることを目的とするものである。

また、通院による精神医療を継続的に要する方に対しては、障害者の日常生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づく自立支援医療（精神通院）により、都道府県及び指定都市がその医療に関する費用の一部について、公費負担を行っている。なお、申請の受付は市町村が窓口となっている。

#### (3) 精神科病院実地指導

人権に配慮した適正な精神医療の確保、精神障害者の社会復帰・社会参加を促進する観点から、精神科病院実地指導が行われている。

なお、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、福岡県精神科病院実地指導要領が作成されており、当所では、管内6か所の精神科病院に対して実地指導を行っている。

#### (4) 申請・通報・届出等に関する対応

平成26年度申請・通報受理件数（単位 件）

内 訳	22条申請	23条通報	24条通報	25条通報	26条通報	計
実件数	0	22	3	0	19	44

\*診察及び保護の申請（法22条）、警察官の通報（法23条）、検察官の通報（法24条）  
保護観察所の長の通報（法25条）、矯正施設の長の通報（法26条）

平成26年度措置診察の実施状況 (単位 件)

申請・通報 受理件数	措置診察 不要	措置診察 実施		
		措置該当	措置非該当	計
44	22	15	7	22

(5) 入院患者の現地診察

措置入院者及び医療保護入院者の病状を把握するとともに適正な入院形態や人権を尊重した処遇を確保するために県知事が指定する精神保健指定医による現地診察を実施している。新規措置入院者の入院後3ヶ月経過時(随時)や病院実地指導時(年1回)に実施している。

平成26年度現地診察実施状況 (単位 件)

措置入院者	医療保護入院者	任意入院者	計
16	23	3	42

(6) 精神保健福祉相談

本人だけでなく家族や関係者からの多様な相談に対して、毎週水曜日に専門医師による精神保健福祉相談を行っている。同時に、思春期やアルコール問題についても定例相談を実施している。また、日常的に保健師による電話・来所相談も行っている。

ア 市町別 相談件数(定例相談、定例外相談の来所者・電話相談) (単位 件)

年度	筑紫野市	春日市	大野城市	太宰府市	那珂川町	管外・不明	計
24	333	227	631	310	614	141	2,256
25	177	144	351	155	567	94	1,488
26	372	245	440	287	388	160	1,887

平成26年度の電話相談は1,185件であった。来所相談ともに電話相談は問題解決の糸口として大きな役割を果たしていると考えられる。

イ 分類別 相談件数(定例相談、定例外相談の来所者) (単位 件)

年度	一般相談	老人精神	アルコール	思春期	その他	計
24	166	8	12	35	38	259
25	218	4	15	27	71	335
26	128	2	12	31	102	275

平成26年度の定例日以外の来所相談は214件、定例相談は61件であった。

(7) 訪問指導

生活の場である家庭等を訪問し、対象者並びに家族が自分達の生活を維持しつつ、治療の継続や地域での生活を発展させることが出来るように関係機関等と連携を深めながら支援している。

平成26年度訪問指導件数 (単位 件)

区分	筑紫野市	春日市	大野城市	太宰府市	那珂川町	不明・管外	計
訪問実数	40	20	27	11	8	33	139
訪問延数	144	54	68	73	44	44	427

(8) 社会適応訓練事業（福岡県精神保健職親制度）

この制度は、精神障害者を一定期間職親に委託し、実際の就労の場において社会適応訓練を受けさせることにより、日常生活への適応、社会性のかん養、職業技能の習得など社会的自立を動機づけるとともに、社会復帰の促進を図ることを目的としている。

現在、当所管内の登録職親事業所は9カ所で、訓練性は2人（平成26年度末現在）である。保健師等が月1回程度職親を訪問し、訓練状況の把握や職親事業者への聞き取り、訓練生との対応について助言・調整等を行っている。

2 精神障害者地域支援事業

保健・医療・福祉等の関係機関が連携して精神障害者に対する充実した支援体制を構築すること、及び地域で安定した生活を希望する精神障害者への障害福祉サービスの提供に関係機関が協力して行うことにより、精神障害者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援を行うことを目的とする。

(1) 事業方針

精神障害者の地域移行を推進するため、精神科病院の退院支援と地域支援の有機的な連携を構築する。

(2) 事業内容

ア 地域移行の推進に向けた地域支援関係機関会議

(ア) 第1回地域支援関係機関会議

日 時：平成26年9月2日

参加者：市町担当者、精神科病院担当者

内 容：①講話 「改正精神保健福祉法のポイント」

講師 福岡県精神保健福祉センター 相談課長 瀨尾 孝子氏

②情報交換及び協議

医療保護入院における家族等の同意に関する運用について

医療保護入院の退院促進に関する措置について

(イ) 第2回地域支援関係機関会議

日 時：平成26年12月24日

参加者：市町担当者、精神科病院担当者、関係機関担当者

内 容：①情報交換 地域における精神障害者支援について

②協 議 精神障害者の地域移行を促進するために

イ 地域支援従事者研修会の開催

日時	場所	参加者	内 容	講師
平成27年 3月16日	筑紫総合庁舎 大会議室	市町担当者 精神科病院担当者 関係機関担当者 23人	(1) 講話 「医療と福祉が連携し 精神障害者を支えるた めに」 (2) 情報交換	福岡県精神 保健福祉士 協会長 大山和宏氏

ウ 自立支援協議会（市町の福祉部門）への支援

筑紫地区地域自立支援協議会の全体会、連絡会、各市町個別支援会議、地域連携部会に出席している。

エ 就労支援

就労や就労のための訓練を希望する相談者に対し、職親制度の紹介、ハローワークや障害者就業・生活支援センターちくしへの同伴相談等を行っている。また、関係機関が主催する会議や研修会に出席し、就労支援に関する協議・情報共有を行っている。

(3) 処遇困難事例・精神科病院の退院支援に関する連携体制の構築

ア 事例の検討及びサービス調整等に関する会議

困難事例について、市町のサービス調整会議・要保護児童対策協議会実務者会議や病院主催や医療観察法のケア会議に出席し、支援を行った。

(平成26年度)

	支援対象者数		開催回数
	実人数	延人数	
サービス調整会議	18	33	28
医療観察法ケア会議	1	6	6
市町主催個別支援会議	72	72	19
計	91	111	53

イ 精神障害者社会復帰事業(精神障害者の地域定着推進事業)

統合失調症患者等の退院後の地域生活を見守る体制の充実を図るため、病状悪化時の処遇プランを支援する関係機関と共有し、早期に病状悪化時に医療機関と連携できるよう見守り体制を構築している。2事例について支援を継続中である。

ウ 精神障害者訪問指導体制強化事業

保健師の訪問活動等を通して、医療機関受診が困難である等、精神科医の判断が必要と考えられる者に対して、精神科医が同行訪問し、専門的見地から本人・家族に助言を行うものである。対象事例はなかった。

3 自殺対策事業

平成24年に、年間自殺者数が3万人を下回ったが、依然として深刻な状態にあることから、筑紫地区の関係機関が効果的に連携し、地域住民のこころの健康維持・向上および自殺を予防することを目的とする。

(1) 人材養成

ア ゲートキーパー研修

日時	場所	参加者	内容
平成26年 9月17日	大野城市北 コミュニテ ィセンター	大野城市北地区福 祉推進委員 67人	研修の企画に参加、助言を実施 当日は大野城市の保健師が講話を 行い、グループワークの支援を実施
平成26年 8月～9月	筑紫総合庁 舎大会議室	当所職員 104人	当所保健師によるミニ講話の実施

イ 行政職員等研修会

市町や関係機関の窓口職員等を対象とした研修会を実施している。

日時	場所	参加者	テーマ	講師等
平成26年 10月1日	クローバープ ラザ	市町職員 関係機関職員 当所職員 16人	① 講話 「遺族からのメッセ ージ～わかちあいの 現場から～」 ② ミニレクチャー ③ 事例検討	リメンバー福岡自死 遺族の集い代表 福岡エクレール法律 事務所 春田 久美子氏 九州合同法律事務所 緒方 枝里氏
平成26年 10月23日	クローバープ ラザ	市町職員 関係機関職員 当所職員 11人	① 講話 「カウンセリング的 対応の実際～相談窓 口でできること～」 ② ロールプレイ	筑紫女学園大学 人間科学部 浦田 英範氏

ウ ゲートキーパー養成研修マニュアル

地域のゲートキーパー機能強化のため、平成23年に当所においてゲートキーパーマニュアルを作成した。これを管内市町で実施されるゲートキーパー養成研修において、活用して頂いている。

更に毎年、これを活用しやすいようにバージョンアップしたものに改定し、管内市町に配布している。

(2) 普及啓発の強化

ア 地域自殺予防企業セミナー

日時：平成26年7月24日

対象：杉病院職員 36人

内容：「みんなで守ろう心の健康」

講師：保健所職員（県民健康づくり支援事業と共同実施）

イ 関係機関との連携、リーフレット配布など

- ・筑紫薬剤師会に協力を依頼し、会員にチラシ配布
- ・9月4日、2月12日 地域職域連携会議にて情報提供

(3) 地域での自殺対策の協議

- ア 筑紫地区自殺対策関係機関連絡会議の開催  
精神保健福祉部会と同時に開催している。  
日時：平成27年1月15日

- イ 実務担当者会議の開催  
日時：平成26年12月11日

4 アルコール依存症対策事業

市町や関係団体と協力し、依存症患者及び家族の相談や支援を行うと共に、アルコール依存症についての知識の普及に努めている。

(1) アルコール依存症講演会

年月日	場 所	参加者	テーマ	講 師
平成26年 9月30日	筑紫総合庁舎 大会議室	アルコール依存症 者及びその家族 自助グループ会員 関係機関職員 54人	「アルコール 依存症とその治 療」 自助グループ活 動紹介	福岡県立精神医療セン ター太宰府病院 医師 大林 長二氏 断酒連合会、断酒協議会 AA、無限会

(2) 支援者のためのアルコール依存症研修会

年月日	場 所	参加者	テーマ	講 師
平成27年 1月27日	筑紫総合庁舎 大会議室	関係機関職員 9人	「アルコール依存症 の支援のポイント①」	雁の巣病院 PSW 神谷 直美氏
平成27年 2月10日	筑紫総合庁舎 大会議室	関係機関職員 6人	「アルコール依存症 の支援のポイント②」 「事例検討」	雁の巣病院 PSW 神谷 直美氏

(3) 自助グループの定例会等への参加

各団体の定例会等へ参加し、活動の情報交換を行った。

自助グループ名	年月日	場所	内容
福岡断酒協議会	平成26年5月31日	福岡市南市民センター	福岡断酒友の会地区例会
	平成26年8月24日	福岡市男女共同参画推進セ ンター (アミカス)	酒をやめたい人の集い
AA	平成26年6月2日	福岡市健康づくりサポート センター (あいれふ)	まいづるグループミーティ ング
福岡県断酒連合会	平成26年6月11日	大野城まどかびあ	大野城断酒友の会通常例会
福岡無限会	平成26年5月30日	大野城市中央コミュニティ センター	ミーティング
	平成26年7月20日	大野城市中央コミュニティ センター	1周年記念ミーティング

## 5 普及啓発活動

地域住民のこころの健康づくりの推進や、精神障害者への理解を深め偏見をなくし、共に生活できる地域づくりを目的として講演会を実施している。

### (1) 精神保健福祉講演会 (一般等対象)

年月日	場 所	参加者	テーマ	講 師
平成26年 10月30日	那珂川町 福祉センター	一般住民等 48人	ストレスと上手につきあう方法	乙金病院 医師 津留 壽船氏
平成26年 11月29日	プラム・カル コア太宰府 (太宰府市中 央公民館)	一般住民等 37人	「あなたのこころ、元気ですか？ ～こころの病気のサインと対応～」	福岡県精神保健福祉センター 医師 阿部 公信氏

### (2) 思春期・ひきこもり関連

年月日	場 所	参加者	内容	講師等
平成26年 12月17日	春日市ふれあい文化センター サンホール	春日市内の小中学校に勤務する教職員 172人	春日市学校教育研究会合同研修会 ミニ講話：「子どものこころの問題と保健所の役割」	保健所職員
平成27年 2月20日	筑紫総合庁舎 第二会議室	春日市スクールソーシャルワーカー、 学校教育課職員 9人	春日市スクールソーシャルワーカー研修 ・保健所業務の紹介 ・架空事例を用いて、連携について考える(意見交換)	筑紫女学園大学 教授 浦田英範氏

\*平成26年度は思春期精神保健福祉相談の件数の多かった春日市をモデルとし、実施した。

## 6 精神障害者等援助事業

### (1) 精神障害者家族会支援

精神障害者家族会「五筑会」の平成27年5月現在の会員数は48人で、その支援として、定例会に参加し必要に応じて助言を行っている。また、年2回、精神保健福祉家族講座等を精神障害者家族会と連携して実施し、一般住民に周知し、啓発を進めている。

#### 精神保健福祉家族講座

年月日	場 所	参加者	テーマ	講師等
平成26年 9月16日	筑紫総合庁舎 大会議室	五筑会、一般住民、関係機関職員等 46人	「心の病とのつきあい方～家族の対応について～」	福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴氏

平成27年 2月24日	筑紫総合庁舎 大会議室	五筑会、一般住 民、関係機関職 員等 33人	「地域で暮らす準備っ て何だろう？」	福岡県立精神医療セン ター 太宰府病院 地域連携室 主任 窪井 かおり氏
----------------	----------------	------------------------------	-----------------------	---

(2) 高次脳機能障害支援事業

保健医療介護部健康増進課において、高次脳機能障害に関する相談支援体制の充実や関係者による連携会議、研修会等に取り組んでおり、当所からは研修会等に参加し、支援体制を整えている。

(3) 認知症医療センター事業

認知症患者は今後ますます増加すると予測されており、本県でも増加が見込まれている。認知症は、早期に治療することで症状の改善や進行を遅らせることが可能である。そのため、地域において核となる認知症の専門医療機関として認知症医療センターが県内11か所に設置されている。また当所からは、下記事業に参加した。

- ・ 平成26年度福岡県認知症フォーラム  
平成27年1月18日 電気ビル共創館